

EDELWEISS

MAI 2024

山歩きの季節

チューリッヒ最大の祭り「セクセロイテン」では、冬の象徴のBööggを燃やして、その所要時間で来る夏の暑さを占います。それなのに今年は1892年から続く史上初、強風のために点火できませんでした。その後、雪が何度も降ると、史上初の冷夏になりそうで怖いですが、春の太陽が覗くと、そんな不安はすぐ払拭されて癒されますね。

山国スイスではウィンタースポーツが終わり、山は「滑る場所」から「歩く場所」に衣替えます。山歩きに全く興味がなかったのに、スイスに住むと山歩きの魅力が分かるようになるから不思議です。

そんな事を考えながら、「今月号の表紙は山で飾ろう！」とっていると、素敵な写真が寄せられました！右の写真は、KETTEのご登場者が、お気に入りのビール缶そのままの風景を撮ったものです。よく出会うビール缶なのに、山も湖も場所の名前すら知らずに飲んでいましたが、今回初めて「そのままの風景写真」を見て、感動しました！そんな生の体験をシェアして下さった小杉さんに感謝です！

左下の写真は、以前も新年号用に富士山の写真を使わせてもらった元ウィーン国立歌劇場専属歌手の甲斐栄次郎さんが、別のアングルの写真もJCZ会員の皆さんにシェアできたら、と送ってくれた物です。飛行機の窓越しに撮った富士山、火口部分とか、見えますか？

これらの写真でモチベーションが上がったら、お天気の良い週末にでも山歩きに出かけましょう！折角こんな美しい山々に囲まれているのですから・・・。

「いきなり山は・・・」と躊躇してしまう方にも朗報！今月のJCZイベントは山に近いBad Ragazでパーベキューです！P7をご覧ください！(SN)



Wonnemonat Mai



今の時代、マンガを通して日本が大好きになる若者に多く出会いますね。まさしく最強の日本大使と言えます。チューリッヒにもZURIKO (ツリコ) というマンガ&アニメのお店があるなんて知りませんでした。去る4月6日に2周年&新装祝いに行って来ました！新店長のマナとフィリップとその仲間達が作り出す居心地の良い空間へ、Have a go!
www.zuriko.ch



- 巻頭文
『ヘンリー・キッシンジャーが遺したもの』 青砥 玄(会長)
- 私のイチオシ、シェアします！ Vol.44
『Zürcher Brockenhaus』 阿部 牧子
- Hoi Zäme ホイツアメ Vol.15
『みんな違って、みんないいのだ』 長坂 道子
- 美のプリズム Vol.23
『スイスの現代美術作家イヴ・ネッツハマー ふたつの個展』 柿沼 万里江
- KETTE (会員の輪) Vol.177
小杉 航大さん (クローテン在住)

「ヘンリー・キッシンジャーが遺したもの」

巻頭文：青砥 玄（会長）

昨年暮れに亡くなったヘンリー・キッシンジャーは、米国の国際政治学者であり、100歳という彼の人生において現代史の様々な部分に大きな影響を与えた人物として有名です。一般的に、彼の外交政策は、アメリカの国益と力の均衡を重視し、理想主義よりも現実主義を優先することで知られています。そのキッシンジャーについて国際政治アナリストの伊藤貴氏が、極めて興味深い解説をされています。伊藤氏のキッシンジャーに対する評価は、肯定的な部分と否定的な部分が混在する人物という事です。負の部分としては、彼が米大統領安全保障補佐官及び国務長官の時に、民間人に対する多くの爆撃命令を出し数十万人を殺害させた事実があります。彼が戦争犯罪者であることは確実ですが、しかし彼の国際政治学者としての実力は群を抜いており、注目に値すると伊藤氏は主張します。その詳しい説明をネット番組「キッシンジャーの栄光と残虐」で語られていました。米国政治の中核であるワシントンから国際政治の動きを30年以上見つめ続けてこられた氏の視点を、私達には大いに参考になると思えますので、以下にご紹介します。

伊藤氏は40年以上に渡り英語の書籍、論文を読み漁り、“欧米人の思考に大いに影響を受けた”と自称されています。氏の思考パターンに大きな影響を与えた7人の学者が存在し、キッシンジャーはその中の一人だそう。その7人というのは、アービング・バビット(ハーバード大古典学・フランス文学教授)。彼の一番弟子のT.S.エリオット(ノーベル文学賞受賞の詩人)。ラインホルド・ニーバー(20世紀米国最大のキリスト教神学者)。ジョージ・ケナン(第二次大戦後ソ連封じ込め政策策定者)。サムエル・ハンチントン(「文明の衝突」著者)。ケネス・ウォルツ(国際政治学でネオリアリズム学派の創設者)。そしてキッシンジャーです。

この7名には共通点があり、それが「哲学と政治思想史の双方に深い知識を持っている点であり」同時に伊藤氏の持論である、「“ものを考える為の3つの段階”を認識しそれを実行している点だ」と語ります。3つの段階とは、

- 1 番上が「哲学・宗教的レベル」の知識と思考力
- 2 番目は「パラダイムレベル」の思考力
これは学問の学派に値する部分で、それにより思考パターン、考え方パターンが違ってくる。
- 3 番目が、「ポリシーレベル」の思考力
これは極めて具体的な政策などで、実現可能かとか、コストはどうかとか、人気があるかどうかなどのレベルとなります。

この3つの段階を明確に区別できない人は、非常に浅い議論しかできないと伊藤氏は手厳しく指摘します。

日本の歴史を見ると、奈良時代から江戸時代までは仏教と漢学・中国の古典があり

ました。仏教は半分哲学、半分宗教のような存在です。しかし明治以降、日本の過去150年から170年は哲学的なレベルでの議論が無くなってしまい、ほとんどが外国のパラダイムの猿マネに終始し、ほとんどがポリシーレベルの言い争い(損か得かとか、実現可能か否かといった)に終始していると伊藤氏は嘆いています。そんな議論を続ける限り我々の議論は世間の流行に押し流され、30年、50年持続可能な政策や長期的視野を持つ政策は出てきません。これぞまさに日本の問題点であると、鋭く批判されています。

そういった観点よりキッシンジャーを見てみましょう。参考になるのが彼の大学時代の卒業論文「The Meaning of History: Reflection on Spengler, Toynbee, and Kant」です。400ページにも及ぶその卒論は、20世紀初頭に「西洋の没落」を書いたドイツ人シュペングラーと、20世紀最大の歴史学者「歴史の研究」著者英国人のトインビーと、ドイツの哲学者カントの3人の歴史哲学を比較し、歴史哲学はどのように成り立つのかを書いた内容とのこと。さらに彼の大学院の博士論文は「Peace, Legitimacy and Equilibrium」平和、正当性と均衡です。国際政治において平和とそれぞれの国の正当性と均衡がどのように達成されているのかが検証された内容です。実はこの論文は国際政治学界で、古典的な名著とされていると伊藤氏は指摘し、こんな内容の論文を20代の若い時に執筆しているという事実は、彼の教養の深さが尋常ではなかったことの証明だと思えます。

そんなキッシンジャーは現代の国際政治の混乱の原因を鋭く指摘しています。キッシンジャーははじめ前述7人の認識は、国際政治を深く認識するためには、背後にある文明的な衝突という面を正しく認識なくては、真の解決策など出てこないと主張しているのです。キッシンジャーが98歳の時に執筆し、99歳の時に出版された彼の最後の書籍「Leadership」に記載されている内容を伊藤氏は紹介し、面白いのは最後の30ページだと言います。キッシンジャーはここ半世紀以上の間、欧米諸国では真の思考力を持った政治指導者が出現しなくなると嘆いており、伊藤氏も全く同じ意見であり、大いに共感したと言います。

「過去60年間、人間がどんどん軽くなっている。1960年代にはまだきちんと真面目に話が出来た指導者がいたのに最近のG7の首脳ときたら、議論に値しない人間ばかりだ。しかしプーチンだけは例外である。」とキッシンジャーは語ります。実はキッシンジャーは1990年代中頃からプーチンとは親しくなり始め、頻りに会っては文明論、

哲学、宗教について議論をしていたと言います。

キッシンジャーは上記書籍の中で「高校と大学の教育がダメになった」と言っています。それは、STEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics) といったテクニカルな能力だけを磨くことに重点を置き、自分が若い頃受けていたクラシック教育(人文教育)が無くなってきている点だと言います。過去2500年間の歴史上最も重要な書籍を50冊、100冊と、じっくり原語で読ませるような教育。それは社会の1-2%と言われる、真の指導者を育てる為にはどうしても必要な学問だということです。そういった主張はT.S.エリオットやアービング・バビット、ジョージ・ケナンなども語っています。

「大学教育というのはごく少数の非常に知恵のある深い思考力を持つ人材(未来の指導者)を育てる場所であり、単なるMeritocracy(実力主義)を広めるための機関ではないということです。学校で高い成績を修めるといのは、人間の能力の半分くらいしか測れない。そんなメリトクラットには指導力など無い」と切り捨てます。そういえば、現代の日本の政治を見ていて、読者の皆さんも同じような嘆きを感じることでしょう。こういった人々は、往々にしてイデオロギーを振り回すので厄介なのだとも言っています。「“あの国は民主的でない”、“自由が無い”、“LGBTを無視している”などとポリティカルコレクトネスを振り回し、世界中に同じ資本主義と民主主義の基準を押し付けようとする」と苦言を呈しています。

結論的にキッシンジャーが確信していたのは、世界に覇権国は不要であり、いくつか異なる文明を持つ勢力が互いの均衡を保つような国際政治を目指してこそ、真の平和が実現すると説いたのでした。

現代の世界は、グローバリズムの行き過ぎにより、様々な所で軋轢が生じている状況の中で、国家や民族がそれぞれ持つ独自の文化や宗教を守ろうとする動きが、世界中各地で始まっています。それは当然の動きでありましょう。世界には、異なる文明が存在する事実を、歴史的にも深く理解してゆくことを通してのみ、始めてキッシンジャーが説いた、均衡を求める寛容性が生まれてくるのだと思います。今まさに現代の世界に必要な知恵なのではないかと強く感じた次第です。



「キッシンジャーの栄光と残虐」

ご意見・ご質問は青砥まで
gen.aoto@toyota.ch

「持続可能な開発」「サステナブル」「SDGs」という言葉は、ドイツ語では「Nachhaltigkeit」という単語でよく目にします。真新しい言葉で、ただの時流とすることもできますが、大量生産大量消費の歪みから目を逸らし続けることもできません。私たちは簡単に手に入るからと物を購入し、物を捨てた後に、それがどこでどうなるかということは深く考えずに暮らしているのではないのでしょうか。

そこで今回ご紹介したいのが、「Zürcher Brockenhaus」というセカンドハンド/リユースショップです。このお店は1904年に設立された慈善団体の協会が運営していて、チューリッヒ中央駅からほど近い現在の立地に腰を据えたのは1933年の頃だそうです。スタッフは修理作業を行う修理人や裁縫師の方が揃い、100年以上になる活動を続け



ています。

お店は3階建ての建物で、チューリッヒ中央駅から伸びる線路を跨ぐ人道橋Negrellisteigから、可愛い薄ピンクの塗装と「Brockenhaus」という誇らしげで大きな文字がよく見えます。

店内にはありとあらゆる物があり、それらが綺麗に修繕し磨かれて展示されています。まず地上階は季節の催事場で、その時期のテーマによって展示されている物が



Zürcher Brockenhaus

阿部 牧子



違います。先日は夏に向けてのガーデニング家具が並び、パラソルや庭用デッキ、可愛い植木鉢などもたくさん並んでいました。

2階は食器などの台所用品と服があります。ここで注目したいのが、ガラス食器のコーナー。ガラス製品は中古でも古びず、ワイングラスのセットなどは高級百貨店に並ぶような品質のものもあります。陶器のお皿やティーセットも、どこかのお家で大切に使われていたか、もしくは全く使われていなかったのか、きれいな掘り出し物があるようです。私はここでデルフト焼きのカップを買ってペン立てに使ってますし、素敵な銀の小皿もアクセサリ入れに活用しています。



古着は人によって好き嫌いがあるかもしれませんが、ここも一見の価値があります。ほとんどが「お古」のように見えますが、原宿にあったヴィンテージ古着をファッションとして活かす趣が、ヨーロッパの若い人達の間にもあるようです。どこかの卸売から寄付されたものもあるらしく、紳士服の

コーナーには新品のネクタイが並んでいませんし、たくさん並ぶ子供用長靴も新品でした。



3階は家具と古本のコーナーで、素晴らしいアンティーク/ヴィンテージの家具と照明器具が展示されています。椅子一脚をとっても、今の大量生産されるものと職人が無垢材で作ったものでは、質の違いが歴然としています。私はここでダイニングチェアを二脚買いましたが、大変気に入っています。自分より古いということは、物であっても人生の先輩のようであって、今まで誰かが使い続けてきた歴史を感じさせてくれる家具は、インテリアにちょっとした深みを与えてくれるように感じます。

さて、このお店のもう一つの魅力は、いつ行っても新しい発見があることです。一度行って収穫がなくとも、次に訪れると新しく寄付された物が陳列されています。ともすると、何かいいものを見つけて「ちょっと家に帰ってもう少し考えよう」となると、あっという間に他の人に買われてチャンスを逃すなんてこともあるのです。私は街中で空き時間があつた時などに、少しわくわくして、今回は掘り出し物が見つかるだろうかと足を運んでいます。またZürcher Brockenhausでは随時寄付を受け付けているようで、不要になったけれどまだまだ使える物ならば、ここで次に使ってくれる人を見つけるといった選択肢を、私たちに提供してくれています。

Zürcher Brockenhaus

Neugasse 11, CH-8005 Zürich

開店時間： 月～金10:00～18:30

土 10:00～16:00

<https://www.zuercher-brockenhaus.ch/>

〈日本航空〉里帰りは快適、安心なJALで!

チューリッヒ発 ヘルシンキ経由羽田線

コンパクトなヘルシンキ空港は乗り継ぎも便利!

便名	路線	出発時間	到着時間
JL6844*	チューリッヒ → ヘルシンキ	10:50	14:35
JL048	ヘルシンキ → 羽田	17:40	13:55(翌日)

便名	路線	出発時間	到着時間
JL047	羽田 → ヘルシンキ	08:25	15:40
JL6845*	ヘルシンキ → チューリッヒ	16:30	18:20

*フィンエアーによる運航です。

※2024年10月26日までの運航スケジュールです。出発曜日等により上記ダイヤと異なる場合がございます。

チューリッヒ発 ロンドン経由羽田線

日本からの復路は人気の深夜発!

便名	路線	出発時間	到着時間
JL6506**	チューリッヒ → ロンドン	07:15	08:10
JL042	ロンドン → 羽田	09:40	07:15(翌日)

便名	路線	出発時間	到着時間
JL041	羽田 → ロンドン	00:20	06:25
JL6533**	ロンドン → チューリッヒ	09:20	12:10

**ブリティッシュ・エアウェイズによる運航です。

毎日運航の
パリ=羽田線、
新規就航の
ドーハ=羽田線も
ぜひご利用ください!



詳細・ご予約は www.jal.co.jp/ch/ JALヨーロッパ予約センター 0844-888-777 (スイス国内・日本語専用ライン)



少し前のことだが、地元の新聞で興味深い記事を見つけた (Tages Anzeiger 2023年2月9日)。

「ゾットする方言」と題されたその記事によると、スイス人が最も好きなスイスドイツ語方言ランキングの上位3州は1位・ベルン、2位・グラウビュンデン、3位・ヴァリス、そしてどんな調査においても安定の最下位はトゥルガウなのだとなる。

リンゴやイチゴで有名 (他にも何かあるのかな?) なトゥルガウ州には個人的に友人知人も多く、この不名誉な結果には少々胸が痛むが、当のトゥルガウ人の中にはこのネタを自虐的に使って場を和ませるような人もおり、それはそれでいいのかな、と思ったりもする。

それにしても、トゥルガウ方言がなぜ、かくも不評なのか。再び記事を参照すると、トゥルガウアクセントは一般に《Grell, unsympathisch und kalt》(どぎつくて、感じ悪くて、冷たい)と捉えられているとか。さんざんな言われようだが、トゥルガウ、あるいは広く東部のスイスドイツ語は音的には喉の奥の方で発音される、ちょっと鼻にかかったRがまずは第一の特徴らしい (対して、チューリッヒをはじめ、ほとんどすべてのスイスドイツ語は、巻き舌系のRだそう)。あるいは、口を大きく動かす明るい母音もトゥルガウ近辺にのみ見られる傾向なのだそう。

だが、そうした音自体が客観的に「美しい」というのはさほど説得力がないらしい。似たようなRはフランス語にもあるし、イタリア語の母音はさらに明るい母音だけれど、この両言語はむしろ「美しい音」という評判を持っているのではないか、というのがその理由。

ではこの不人気は一体なぜ? そこでドイツ学者のレーマン教授 (ベルン大学) はひらめいた。ベルンドイツ語とトゥルガウドイツ語で話された50の文章を用い、チューリッヒ、パリ、ケンブリッジの三箇所で「どちらがより美しく、感じよく、心地よく聞

Hoi zäme

ホイツァメ

言葉に寄り添う居場所探し



こえるか」という聞き比べ調査を行ったのだ。

その結果、チューリッヒでは圧倒的にベルンドイツ語に軍杯が上がったが、他の二箇所では実はほとんど差はなかった。ということは、不人気の原因は必ずしもその「音」にあるのではなく、トゥルガウをはじめとする東部がもつ負のイメージに起因するのではないか。逆に人気トップの三州はいずれもスイス人がヴァカンスで訪れる地。無意識のうちに、くつろいだ楽しい時間の記憶とそこで耳にするスイスドイツ語の音がリンクしている、ということもあるのではないか、と記事は続ける。

さて、方言ランキングでは大体真ん中くらいの位置だというチューリッヒ方言。だが早口でアロガントに聞こえる、と、他州での評判はあまりポジティブではない。だがこれも、純粋にその音、というよりは、やはり大都市チューリッヒに対する反感や羨望の気持ちが入り組んだ結果であろうことはなんとなく想像できる。

ドイツ語圏人口はスイス全体のおよそ60パーセント強 (つまり500万人=福岡県の人口くらい) だそうだが、その中に多数の、互いにかなり違いの大きい方言が共生している。国営放送でも、国会でも、各人、ハイジャーマンを使わないときは割に自分の方言のまま。そもそも「標準スイスドイツ語」というものではなく、多種方言の共存状態。フランス語圏ではかつての方言はほぼ消滅し (消滅させ)、標準フランス語で統一されたというが、「そうはしたくなかった」「これからもそうしたくない」というドイツ語圏の強い意志を私はそこに感じるのだ。みんな違ってみんないいのだ、というコンセンサスの徹底ぶり、改めてこれもまた、すごい多様性の力だと思う。

※ ホイツァメ / Hoi zäme / Hallo, Zusammenは、「みなさん、こんにちは」という意味のスイスドイツ語

BULLETIN BOARD

●Musique et Vin 音楽とワインの饗宴
2024年6月16日(日) 16時半 Aarbergerhus Ligerz
Joel Bardolet (ヴァイオリン)・松村茜 (ピアノ)
「パッハ、ブラームス、シューマン、メシアン、武満徹などを中世の街並みが残るリゲーツで、ワイン農家Rebgut der Stadt BernのThomas Berner氏と共に。」
詳しくは: akanematsumura.com 松岡

●ゴレイ由美ソプラノ【春のリサイタル】ピアノMarliesNussbaum
シューマンの8曲の歌のサイクル【女の愛と生涯】
他グリークの春の歌、ピアノ独奏。
1回目 5月26日(日) 16時開演
Ref.Kirche Buchberg (Dorfstr.2, Buchberg)
2回目 6月2日(日) 16時開演
Zunfthaus zur Waag (Münsterhof 8, ZH)
KOLLEKTE 《ゴレイ》

●好評再演 チューリッヒ歌劇場テノール3人のコンサート
オー・ソレ・ミオ、『女心の歌』他
出演: 竹下数雄、C.Hux、C.Hieger、R.Gordillo(ピアノ)
日時: 5月13日(月) 18時
会場: Asia Restaurant Turandot, Aathalstrasse 5, 8610 Uster
入場料: 2 5 Fr、19時~のピュッフェ付き 6 5 Fr
予約: 043/2298233 www.turandot.ch 《竹下》

●三味線ワークショップ
日程: 5月17 - 20日、日時要相談
<https://www.sakura-kai.ch/work-shop> 《ボツィーニ》

●日本の音楽-日本の魂 コンサート
若いエネルギーと卓越したテクニック!
伝統日本とモダン日本のコラボ!
津軽三味線: 深田勇馬 パーカッション: 飯野智大
5月18日(土) 11時 www.sakura-kai.ch
Lavaterhaus, St.-Peter-Hofstatt 6, 8001 ZH
大人 3 0 Fr 学生 2 5 Fr 子供 (12歳まで) 2 0 Fr
チケット: yuma.shamisen@gmail.com 酒井



スイス・日本協会 チューリッヒフィルムマチネのご案内

上映作品: 「悪い奴ほどよく眠る」(The Bad Sleep Well)
1996年・黒澤明監督作品、151分、独語字幕付き
出演: 三船敏郎、香川京子他
日時: 2024年5月12日(日) 11時 (10時45分開場)
会場: Filmpodium der Stadt Zürich
Nüscherstr. 11, 8001 Zürich
入場料: Kollekte (寄付)

JCZ 後援

GINMAKU日本映画祭、10周年！

2024年5月8日(水)~12日(日) 映画館Houdini & Riffraff

日本とスイスの国交150周年の記念すべき年に産声を上げたGINMAKU日本映画祭が、今年で10周年を迎えます。初日のオープニング上映は世界中の映画祭で引っ張りだこ、日本でも大人気となったコメディ・SF映画「Mondaysこのタイムループ、上司に気づかせないと終わらない」。最終日のクロージング上映は、女優としても活躍した田中絹代さんの1955年監督作品「乳房よ永遠なれ」です。上映作品は全て日本映画で、字幕は英語やドイツ語。今年も数多くの作品の中から選び抜かれたドキュメンタリーやフィクションが母国語で楽しめます！

今年は初の試みとなる1950年代のクラシック作品が上映されるほか、ドキュメンタリーやアニメーションなど合計14作品上映されます。小林聡美さん、松重豊さん主演、50代男女の恋を描いた心温まる作品「ツククサ」、原発事故後にたった一人で福島に暮らすことを決意した男性を10年間追い続けたドキュメンタリー「劇場版 ナオト、いまもひとりっきり」、根強い人気で今年もアンコール上映が決定した津端修一さん90歳、英子さん87歳を優しいまなざしで追ったドキュメンタリー「人生フルーツ」、”断らない救急”をモットーに、年間1万台の救急車を受け入れる名古屋の病院で働く医師を見つめるドキュメンタリー「その鼓動に耳をあてよ」など、見逃せない作品ばかりです。

初日のオープニング作品と、最終日のクロージング作品は映画館「Riffraff」で、それ以外の作品は例年同様映画館「Houdini」にて上映されます。



「ツククサ」 ©2022 "Tsuyukusa" Film Partners



「劇場版 ナオト、いまもひとりっきり」 ©T-artist



「人生フルーツ」 ©Tokai Television Broadcasting Co., Ltd.



「その鼓動に耳をあてよ」 ©Tokai Television Broadcasting Co., Ltd.



「乳房よ永遠なれ」 © 1955 NIKKATSU



「Mondays」 © CHOCOLATE Inc.

前売りチケットは4月24日より映画館のHP、窓口にて販売開始です。映画祭の代表を務める当会会員の松原美津紀さんは、クラウドファンディングで募金活動を行っています。個人運営の日本映画祭、資金集めが毎年最大の挑戦です。

以下の手順で協力が可能です。

www.wemakeit.com ⇒ GINMAKUを検索

⇒GINMAKU Film Festival 2024

2024年GINMAKU日本映画祭

開催日程

5月8日(水)・9日(木)・10日(金)・11日(土)・12日(日)

開催場所

Kino Houdini

Badenerstrasse 173, 8003 Zürich

Tel. 044 455 50 30 www.kinohoudini.ch

最寄駅：トラムKalkbreite駅、または電車・トラムWiedikon駅

RIFFRAFF KINO

Neugasse 57-63, 8005 Zürich

Tel. 044 444 22 00 www.riffraff.ch

最寄駅：バスRöntgenstrasse駅、またはトラムLimmatplatz駅

公式HP：www.ginmaku-festival.com

フェイスブック：www.facebook.com/ginmakufestival/

インスタグラム：ginmaku_japanese_film_festival

X (ツイッター)：@ginmakufestival

●『その鼓動に耳をあてよ』の足立拓朗監督が、下記の全日程にゲストとしていらっしゃるようになりました。上映後、質疑応答のため登壇されます。

5月9日16時10分

5月10日18時半

5月11日21時

GINMAKUからのお知らせ

●そしてGINMAKU日本映画祭10周年を記念して、『その鼓動に耳をあてよ』の初日5月9日に、ペアチケット(2枚分)を会員1名様にプレゼントしてもらえることになりました！

ご希望の方は、下記のメールアドレスに「GINMAKUでの思い出」などをテーマに一言メールをお送り下さい。当選者に映画祭から詳細の連絡が届きます。締め切りは5月3日(金)。

info@ginmaku-festival.com お楽しみに！

GlobAS Relocations Europe GmbH

スイスからのお引越はグローバスリロケーション ミュンヘン支店にお任せを！創業20年以上、8名の経験豊富な日本人スタッフによるお引越しサービス。ビデオ下見からの見積り作成(無料)が可能となりますのでまずはお気軽にご連絡ください！



HP: http://www.globas-relo.com

Email: zurich@globas-relo.com

Tel: +49 (0) 89-189-386-21 (日本語直通) 担当: 三嶋

美のプリズム

Vol. 23

スイスの現代美術作家
イヴ・ネッツハマー ふたつの個展

(編集部注：今月の「美のプリズム」は、JCZのHPから閲覧すると、各リンクへ直接アクセスできます。)

2019年3月号の『美のプリズム』において、スイスの現代美術を代表するイヴ・ネッツハマーを紹介したことをみなさんは覚えていらっしゃるだろうか (<https://netzhammer.com/>)。当時のわたしは、彼の展覧会をどうにか日本で開催できないのか試行錯誤していた。つてのある日本の美術館やギャラリーにコンタクトをとってはけんもほろろに断られ、全敗続きであった。その後、紆余曲折を経て今年の春ようやく、宇都宮美術館で「イヴ・ネッツハマー

ささめく葉は空気の言問い」展が



開催される運びとなった(会期は5月12日まで)。最初に動き出してから7年がかりのプロジェクトだった。展覧会を企画してから実現に至るまで数年を費やすのは、美術館の世界ではごく普通のことだが、今回は、コロナ禍、ウクライナ戦争など不確かな要素がわたしたちの想像を凌駕するかたちでプロジェクトに大きな影響を与えた。多くの方々のご助力を得て開催に漕ぎつけた展覧会であるが、何よりも、アーティストと二人三脚で数々の困難に屈せずやり遂げた担当学芸員の胆力、そして展覧会を空間として成り立たせるうえで不可欠なその美的センスの賜物であると、深く感謝している。生きているアーティストと一緒に走り抜けることには、特別な爽快感がある。無論、どのアーティストでもいいわけではない。まず何より、そのアーティストの作品に惚れ込めるかが重要だ。そして展覧会の成否は、深い信頼関係をアーティストと築けるかにかかっている。

宇都宮美術館での展覧会と並行して、実は、ゾロトゥルン美術館でもネッツハマーの個展が開催されている(会期は同じく5月12日まで)。展覧会の題名は、「世界は美しく、こんなにも多様だ。皆が愛し合ってもおかしくはないはずなのに。Die Welt ist schön und so verschieden, eigentlich müssten wir uns alle lieben.」である。宇都宮とゾロトゥルン、ふたつの展覧会は双子のようなものとしてアーティストの頭の中で構想されたことが彼の言葉



選びからうかがえる。なぜならこの全く同じ題名が、宇都宮で展示されている「二十八曲一隻」の巨大な屏風にもつけられているからだ。屏風に描かれたモチーフや主題は、(全く同一ではないが)ゾロトゥルンでは壁画として描かれている。両者に共通するのは、人間や動物、その混種のような風変わりな生きもの、時には切断された肢体たちが絡みあい、壮大なパノラマを繰り広げているところである。これら生きものはネッツハマー作品に特徴的な純化された線によって繋がり、異質で多様な「他者」たちが時には闘い、時には共生する様が見出している。互いの存在は切っても切り離せない、という生きとし生けるものの宿命を、日本では屏風という形式で、スイスでは壁画という形式で表しているのだろう。そして、主題があまり深刻にならないように、淡くて柔らかな色彩が選ばれているのも共通している。宇都宮の担当学芸員はなぜ屏風という形式をアーティストが選んだのか考察しているので、ここで紹介しよう。「綾なす線のアラベスクのうちにも多様な生が一蓮托生となつてつながる光景をネッツハマーは他の作品でも試みているのですが、



ゾロトゥルン美術館での壁画の一部
写真：David Aebi

屏風という形式は、そのようなつながりの玄妙さをあらかずひとつの可能性として選択されたものと考えられます」。

宇都宮とゾロトゥルンのふたつの個展は、さらなる「言葉」によって緊密に繋がっている。7室からなるゾロトゥルン展の各部屋は回廊式で(建築的に)繋がっており、各部屋に付けられたタイトルも、隣接するふたつの部屋のタイトルがひとつの単語を共有するかたちで尻取り式に繋がっていく。(1)ささめく葉は空気の言問い *Blätter sind Fragen der Luft* —(2)空気は根の墓場 *Die Luft ist das Grab der Wurzel* —(3)肉に食い込んだ仮面の根 *Wurzeln von eingewachsenen Masken* —(4)人の住み着かない顔のための仮面 *Masken für unbewohnte Gesichter* —(5)きちんと育てていない人間の顔 *Gesichter von unfertigen Menschen* —(6)人間とは歩くことのできる樹々 *Menschen sind Bäume, die laufen können* —(7)樹は、葉を茂らせた獣 *Ein Baum ist ein Tier mit Blättern*

最後の第7室は回遊プランの第1室と「葉」で繋がり、連鎖の円環を閉じる。「葉」という語は植物の葉であると同時に「言葉」を書きつけるための紙片を意味することを、ネッツハマーは強く意識しているのだろう。それを汲み取った宇都宮の担当学芸員は、「*Blätter sind Fragen der Luft*」という展覧会のタイトルを、空気が振動して葉っぱが揺れ動くように「言の葉」がわたしたちに投げかけられる、と解し、そこには常に言問いがあること、そっと耳を澄ますこと、生のきらめきを、「ささめく葉は空気の言問い」という訳に昇華させた。

だれもが異質で多様な「他者」なのだから、互いに受け入れ認め合い、愛し合えばこんないいことはないのに、現実には、残念ながらそうではないという嘆きはため息となり、「空気の言問い=言葉にならない言葉」の内容をなしていると想像して

みたらどうだろうか。「言の葉」もあなたからわたしを介して連鎖していく。それを「贈り物」として受け取れたらどんなにいいことだろうか。



宇都宮美術館での
屏風と竹のインスタレーション
写真：Yves Netzhammer

さて最後に、イヴ・ネッツハマーの映像作品を見ることのできる今後チューリヒで開催される展覧会と、彼の初の長編デジタル・アニメーション映画「旅する影」についてご紹介しよう。クンストハウスのメディア・アート・コレクションはスイスでも有数の規模を誇る。その中から10名の映像作家を選んだ「Born Digital」展(会期は6月7日から9月29日)では、ネッツハマーの2002年の映像作品「裏返しの鎧 *Die umgekehrte Rüstung*」が公開される。また、今年の秋には、ドイツのデュイスブルクにあるレームブルック美術館(彫刻家のヴィルヘルム・レームブルックの遺品コレクションを保存展示する美術館)で創立60周年を記念した特別展が開催される。そこでネッツハマーは大きな展示室を使って作品を発表する。それが来年、クンストハウスに巡回する予定である。ロッテルダム国際映画祭に招待された「旅する影」は今年スイスで上映されるので、是非、みなさん大きなスクリーンでネッツハマーの世界に浸っていただきたい。



柿沼 万里江 (パウル・クレー・センター研究員)
Zentrum Paul Klee, Monument im Fruchland 3, 3000 Bern

JCZ 5月イベント

「Bad RagARTzオープンエアアートイベント見学」とBBQ

3年に一度開催されるオープンエアのアートイベントが5月4日から始まります。Bad Ragazにお住いのNierhoff松崎由紀子さんが町を案内していただきます。見学の後は、Nierhoffさんのお宅でBBQ、ご家族がまだGreifenseeにお住まいだったころ、Nierhoff家でのBBQは楽しいイベントで何回か開催されました。気候のいい5月の週末、Bad Ragazで過ごしてみませんか。

日時：5月19日(日) 10時 Bad Ragaz駅前集合
定員：15名

BBQ 参加費：20フラン、グリル食材、パン・ソフトドリンクはNierhoffさんが用意していただきます。アルコール、副菜、デザート等は持ち寄り(自由)でお願いします。
申込：5月12日(日)までに、JCZ HP イベント申込フォームより、またはメールでkikaku@japanswiss.chまでお申し込みください。
担当：Nierhoff松崎由紀子

アフタヌーンカフェのお知らせ

初夏の香りがいっぱいの季節となりました。日も長くなり、戸外で過ごす時間も長くなりますね。いつものようにJelmoliのカフェでお会いしましょう。どなたでもどうぞ。

日時：5月9日(木) 14:00-16:00
場所：チューリッヒJelmoli
3Fのレストラン

申込：JCZ HP イベント申込フォームより



チューリッヒ日本人学校運動会

日時：6月1日(土) 9時~15時

場所：ウスター市陸上競技場

(雨天の場合は隣接の体育館で決行)

(SPORTSTADION BUCHHOLZ USTER)

チーム対抗リレーでは、高校生以上の一般参加チームを募集、4人1組で申し込みます。

詳しくは同封のチラシを参照ください。

Der Basar in Worb
ベルン日本人会バザー

SONNTAG, 5. Mai 2024
2024年5月5日(日曜日)
11:00 - 16:00

Bärensaal
Bärenplatz 2, 3076 Worb



入場無料

懐かしい日本のバザー

恒例のベルン日本人会恒例のバザー in Worb、今年も開催いたします!

日本の食べ物や和風小物、親子で楽しめる緑日遊びの他、ジュネーブの日本食材店UCHITOMIの販売もごさいます。

皆さんご家族お揃いで、また知人友人とお誘い合わせの上、ぜひご来場ください。

主催：ベルン日本人会



日常ドイツ語
サポート

あつぱどう!!

DANKE!

日頃ドイツ語が分からなくて困っていることはありませんか? JCZではそういった方々のサポートを行なっています。ご利用になりたい方は、いつでもメールでご相談ください。

申込先：JCZ事務局 jcz@japanswiss.ch

*サポートの内容にもよりますが、10フラン程度を寄付という形でお願いしています。

Events & Festivals

チューリッヒ近郊
お出かけ情報

URLの詳細は、HP:japanswiss.ch上の「チューリッヒ近郊お出かけ情報」をご覧ください。

【レオナルド・ダ・ヴィンチ展】
~10月24日 10:00~

MAAG Moments
Hardstrasse 219,
8005 ZH



【ワーグナー@Hotel Baur au Lac】

5月4、25日(土) 11:15~13:15
《ニーベングの指輪》の全てのスケッチや《ワルキューレ》の1幕をフランツ・リストのピアノで、ワーグナーが歌ったというLe Petit Palaisで、「ジークフリート牧歌」やヴェーゼンドルク歌曲が聴ける! 終演後には有名コックのランチを。



【パネルディスカッション「倫理的消費の推進に向けて」】

5月8日 13:00~15:30
(終了後ミニレセプション)
Collegium Helveticum
Schmelzbergstrasse 25,
8006 Zürich



【サーカスKNIE】

5月9日~6月9日
Sechseläutenplatz, 8001 Zürich
https://www.knie.ch/circus

【サイクル・ウィーク】

5月23~26日 https://cycleweek.ch
Europaallee, 8004 Zürich
スイス最大の自転車見本市と180のワークショップ、国際コンテスト

【水の秘密】

5月24日(金) 19:00~20:15
Kulturpark, Pfingstweidstrasse 16, Zürich
響きによって波長を変えると記録されていた情報が現れてくる
https://www.kulturpark.ch/veranstaltungen/

【ルツェルン音楽祭ピアノ・フェスティバル】

5月9~12日 KKL Luzern
(イゴール・レヴィット監修)

【トーンハレ】 https://tonhalle-orchester.ch

★ファビオ・ピオンディ指揮 ベートーベン
5月21日(火) 19:30~

★カネー=メイソン姉弟 今月の必聴!
5月13日(月) 19:30 小ホール

★国際オルガンデー
5月18~20日

★エレヌ・グリモー ベートーヴェンを弾く
5月24~26日(金)

★Migros-Kulturprozent-Classics ウィーン交響楽団
5月28日(火) 19:30~

【チューリッヒ歌劇場】 www.opernhaus.ch

★ハラルド・シュミットと舞台裏へ
5月16日(木) 19時~21時
ドイツのスター・エンターテイナーが2022年に繰り広げたオペラ面白話、大好評につき再登場。

★モンテヴェルディ作曲《オルフェオ》
5月17、22、25、31日、6月2、6、8、11、16日

小杉 航大(こうた)さん

(クローテン在住)

*お仕事は?/今のお仕事に就いたきっかけは?

日本通運株式会社から1年間の海外業務研修員として、NXスイス株式会社(Nippon Express Schweiz AG)に2023年7月より派遣されております。

日本では4年間、主に航空貨物輸送に関わる仕事をしていました。両親がもともと航空に関わる仕事をしていたこともあり、幼少期から飛行機に興味があったことで、この仕事を目指すきっかけになりました。

スイスに来てからは、航空貨物だけではなく、海上貨物、倉庫業務、引越など、物流に関わる全ての部分を経験させてもらっています。

*スイスに来るまでのお話

幼少期に父の仕事の都合で、マレーシアとシンガポールに計7年間滞在していました。日本の小学校には通っていませんが、いずれの国でも日本人学校に通っていたので、日本の学校生活とそこまで大きくは変わらなかったと思います。中学1年生の時に日本に本帰国し、その後は高校、大学と日本で過ごし、日本通運株式会社に入社しました。入社後4年が経過したところで、弊社の海外業務研修制度に応募し、無事合格したことでスイスに来ることになりました。当初は、ゆかりのある東南アジアも希望していましたが、今となってはスイスで良かったなと思っています。

*スイスにいらしてから/スイス生活は如何ですか?

スイスに来てからなぜか7キロも痩せました。とは言ってもしっかり食べてますし、ほぼ毎日ビールを飲んでいるので理由は謎のままです。

ビールといえば、スイスには数多くの種類のビールが売られていますよね、その中でも個人的には“Quöllfrisch Hell”



がお気に入りです。ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、このビールのラベルが、ゼーアルプ湖(Seealpsee)という湖とセントイス山(Säntis)をモデルにしているという話を聞いて、これは行かないと!と使命感に駆られて行ってきました。1時間弱のハイキングのあと、ラベルと同じ景色を見ながら飲むビールは格別だったので、まだ行ったことがない方はこの夏ぜひ訪れてみてください!

*ご出身は?どんな所?

千葉県佐倉市という場所です。かつては佐倉藩の城下町として栄えており、佐倉城跡や武家屋敷、日本には3つしかない国立の歴史博物館があるなど、歴史的な面影を残す街です。江戸時代末期に蘭学でも名を残したことから、オランダを感じさせる風車がある広場が有名で、春はチューリップ、夏はひまわり、秋はコスモスといったように、季節ごとに違っ

た花畑が楽しめます。有名人では、元野球選手の長嶋茂雄さんや、バンドのBUMP OF CHICKENのメンバーの皆さんの出身地でもあります。

*お気に入りのヨーロッパの街は?

せっかくのヨーロッパ生活!ということ色々なところに旅行しにいった結果、今年の3月は毎週末、国外に旅行に行っていました。(笑)自由に簡単に行き来できる国が多いヨーロッパならではのですね。

今まで行った国で1番のお気に入りは、ポルトガルのリスボンから程近い、“シントラ”という街です。歴史的な建物が数多くあり、街全体が世界遺産に登録されている街なのですが、その中でも「レガレイラ宮殿」というゲームの中に入り込んだような宮殿が特に印象に残っています。地下の洞窟に続く階段など、冒険心がすぐられるような楽しい宮殿です!

*会員の方へのメッセージ

平素より大変お世話になっております。NXスイスの小杉と申します。

弊社は長年に亘りチューリッヒ日本人会に協賛させていただいております。日本・スイス国内・第三国へのお引越につきましては、ぜひ実績豊富な弊社NXスイスにお任せください。日本人事務スタッフと作業員で、心をこめてご対応させていただきます。加えて、航空輸送・海上輸送・倉庫など、ロジスティクスに関すること全般につきましても、優秀なナショナルスタッフが対応いたします。ぜひお気軽にお問い合わせください。私自身のスイス滞在は7月までとなっておりますが、後任の研修員もスイスに来る予定です。引き続きご愛顧のほど宜しくお願い申し上げます。



弊社HPのリンクはこちら↓
www.nipponexpress.ch/

お引越のお問い合わせはこちらまでご連絡ください↓

+41 (0)44 838 1572 **NEX NIPPON EXPRESS**

編集後記

只今、雪景色を眺めながらこの編集後記を書いています。「セクセロイテン」でBööggが燃やせなかったからか、山の家にはクリスマス休暇さながらの雪が積もっています。でも去年だって、Bööggの頭部に仕掛けられた爆竹が完全に弾けるまでに史上最長の57分かかったけれど、それなりに良い夏が来たのだから、今年もきっと大丈夫! Bööggは、今年のゲスト州アッペンツェル・アウサーローデンで6月22日に燃やされる事が決まったそうです。今年のBööggはアッペンツェル風のサスペンダー付きなので、地元でも喜ばれる事でしょう。

Bööggからの飛び火は防げましたが、世界に目を向けると戦争の火種がどんどん飛び火しているように見えます。平和の尊さを強く意識しながら、春を過ごしたいですね。(SN)

広告掲載のご案内

チューリッヒ日本人会 Japan Club Zurichでは、会員の方からのお知らせ・広告の掲載、フライヤー等の会報同封配達を、有料(一部無料)で随時受け付けております。詳細については編集部までお気軽にお問い合わせください。

伝言板コーナーをご利用ください

200文字以内のお知らせ・ご案内は無料で掲載いたします。掲載内容責任者のお名前(会員に限る)を入れた原稿を毎月10日までに編集部にてメールにてお送りください。

●JCZでは広告・フライヤー・伝言板の記載情報については責任を負いかねます。

JCZ会報誌エーデルワイス 2024年5月号

発行責任者: 青砥 玄(会長)

編集: 中 東生

ボツツィー二直美

●編集部専用メールアドレス●
edelweiss@japanswiss.ch

チューリッヒ日本人会
JCZ Japan Club Zurich
Office of Honorary Consul

General of Japan
Utoquai 55, 8008 Zürich
www.japanswiss.ch
jcz@japanswiss.ch

